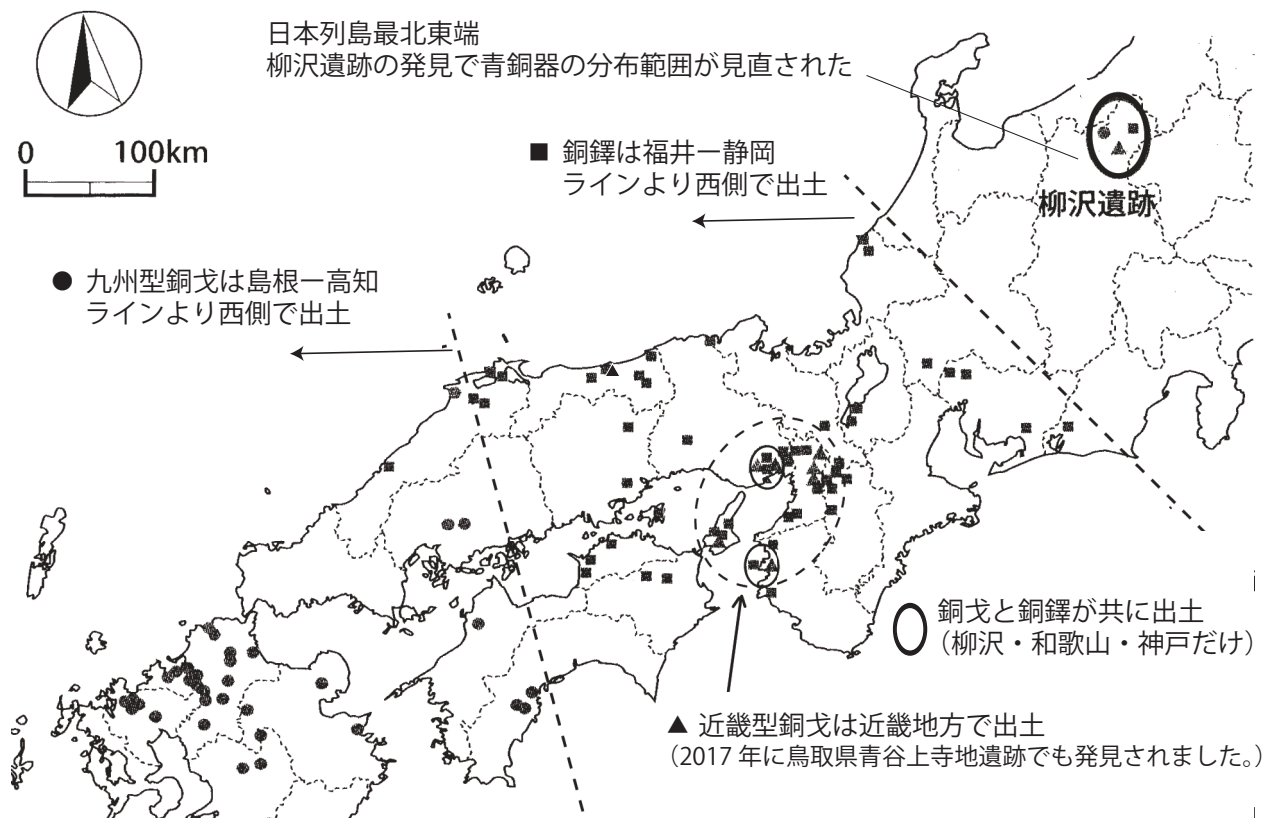


パネルディスカッション
中野の弥生文化と地域間交流
ー柳沢青銅器発見から 10 年、その後の研究動向ー

1 青銅器の伝来から埋納まで

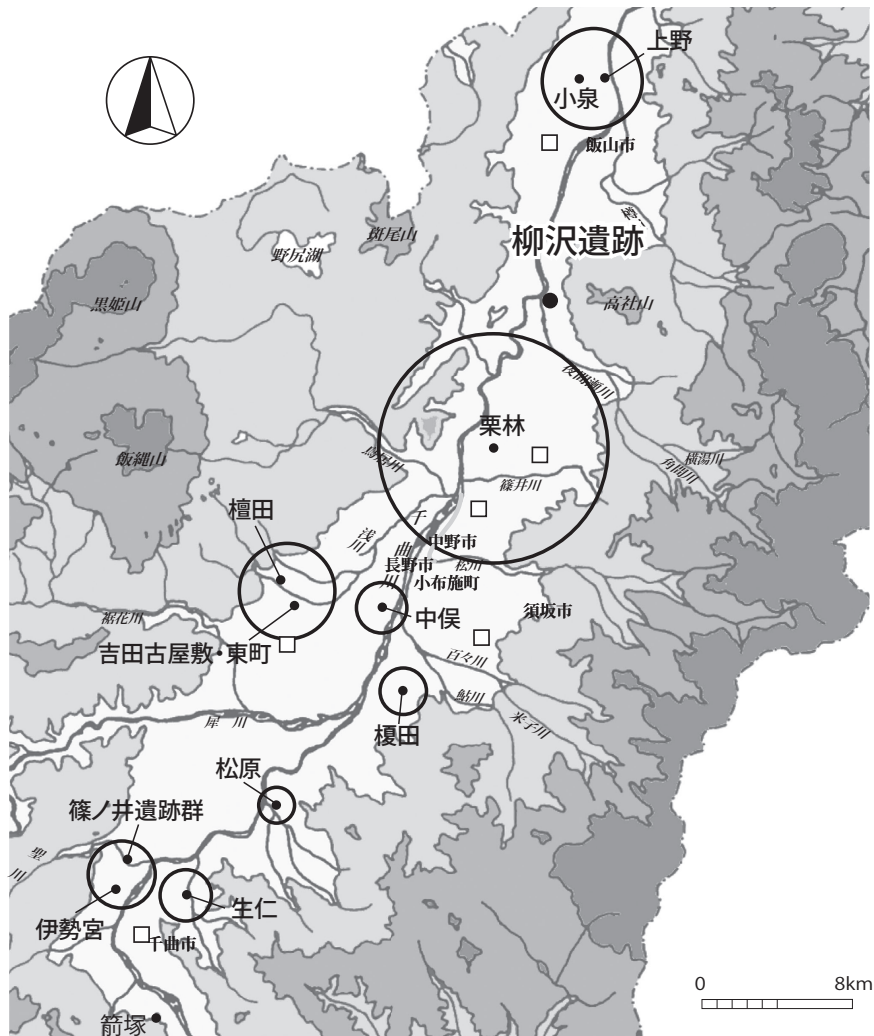
2 栗林式土器分布圏の特徴

3 栗林式土器分布圏はクニなのか



第 1 図 弥生時代中期の銅鐸・銅戈分布範囲

文化庁『2009 発掘された日本列島』に加筆

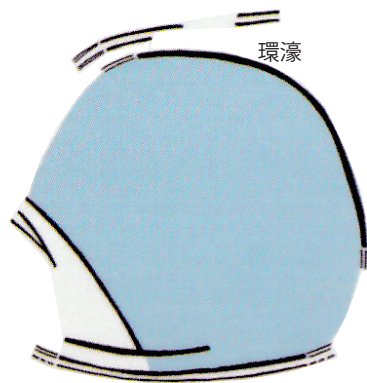


第2図 長野盆地における栗林期集落の地域圏 笹澤 2012 に加筆

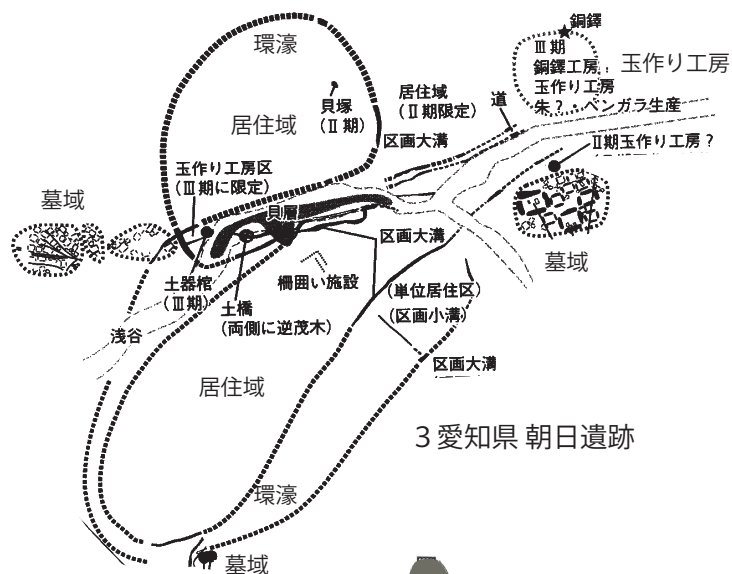
年代測定値		畿 内	加 賀	上 越	北 信	北武蔵	北 信
柳 沢	八日市 地 方						
紀元前 349 ～ 173 …… (2251 土坑)	紀元前 350 …… 300 …… 250 …… 200 ……	Ⅱ 様式	八日市 3		(新諏訪町)	(横間栗 /上敷免)	
			八日市 4				
			八日市 5				
			八日市 6		(松節)		
	Ⅲ 様式(古)	八日市 7	吹上Ⅰ (古)	栗林 1	池上(古)	栗1 古	
		八日市 8	吹上Ⅰ (中)		池上 (新)	栗1 新	
			吹上Ⅰ (新)				
	Ⅲ 様式 (新)	磯 辺 運動公園		栗林 2 (古)	(宮ヶ谷戸)	栗2 古	
	Ⅳ 様式	専光寺	吹上Ⅱ (古)	栗林 2 (新)	北島	栗2 中	
		戸水 B	吹上Ⅱ (新)	栗林 3	(前中西VI- 1 号方周)	栗2 新	
紀 元 0 ……							栗 3

第3図 栗林式土器の編年的位置

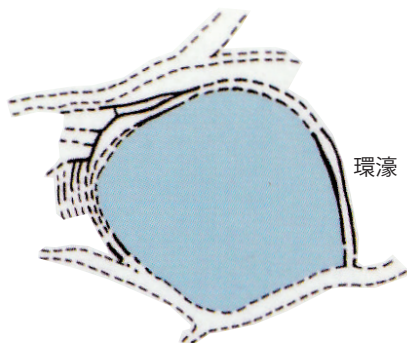
- ・本資料集の段階区分は上図の北信（石川 2012）を用いる
- ・本図は石川 2012、馬場 2008b を基に広田が作成。地域間の並行関係には流動的な部分を含む
- ・年代測定値は、AMS 炭素年代測定法によるもので目安として紹介する。長野県埋文 2012 と小松市教委 2016 による



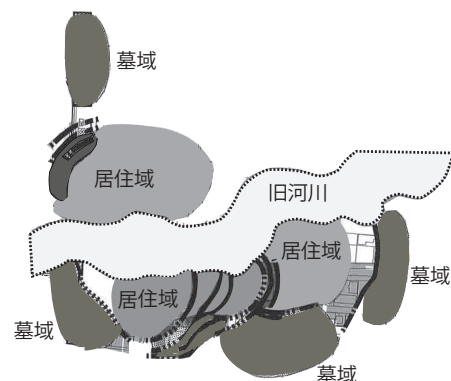
1 奈良県 唐古・鍵遺跡



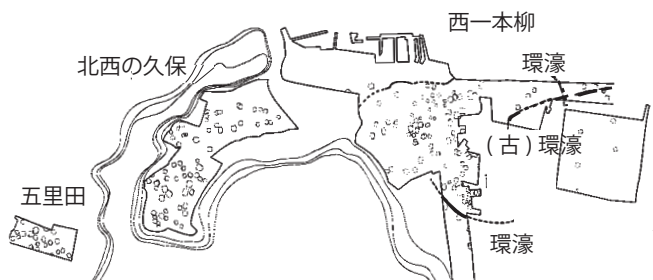
3 愛知県 朝日遺跡



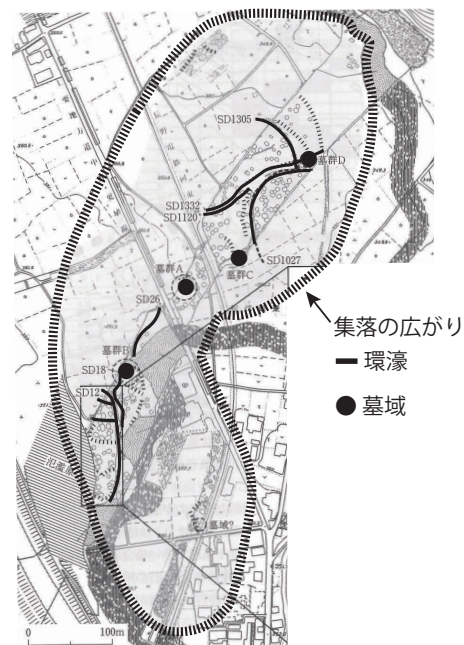
2 大阪府 池上曾根遺跡



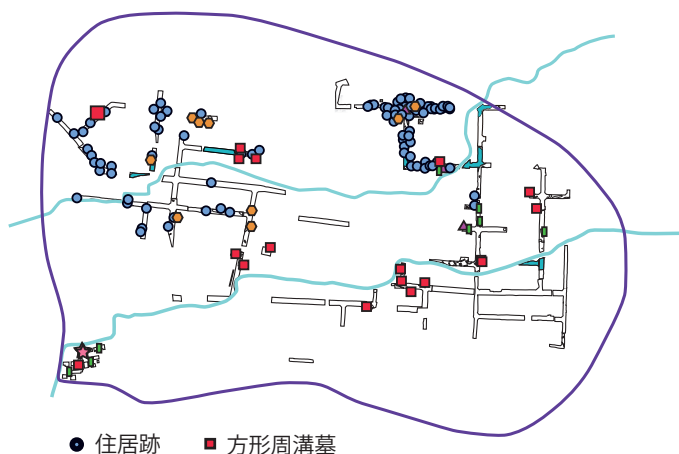
4 石川県 八日市地方遺跡



5 長野県 佐久市
西一本柳遺跡、北西の久保遺跡、五里田遺跡



6 長野県 長野市 松原遺跡

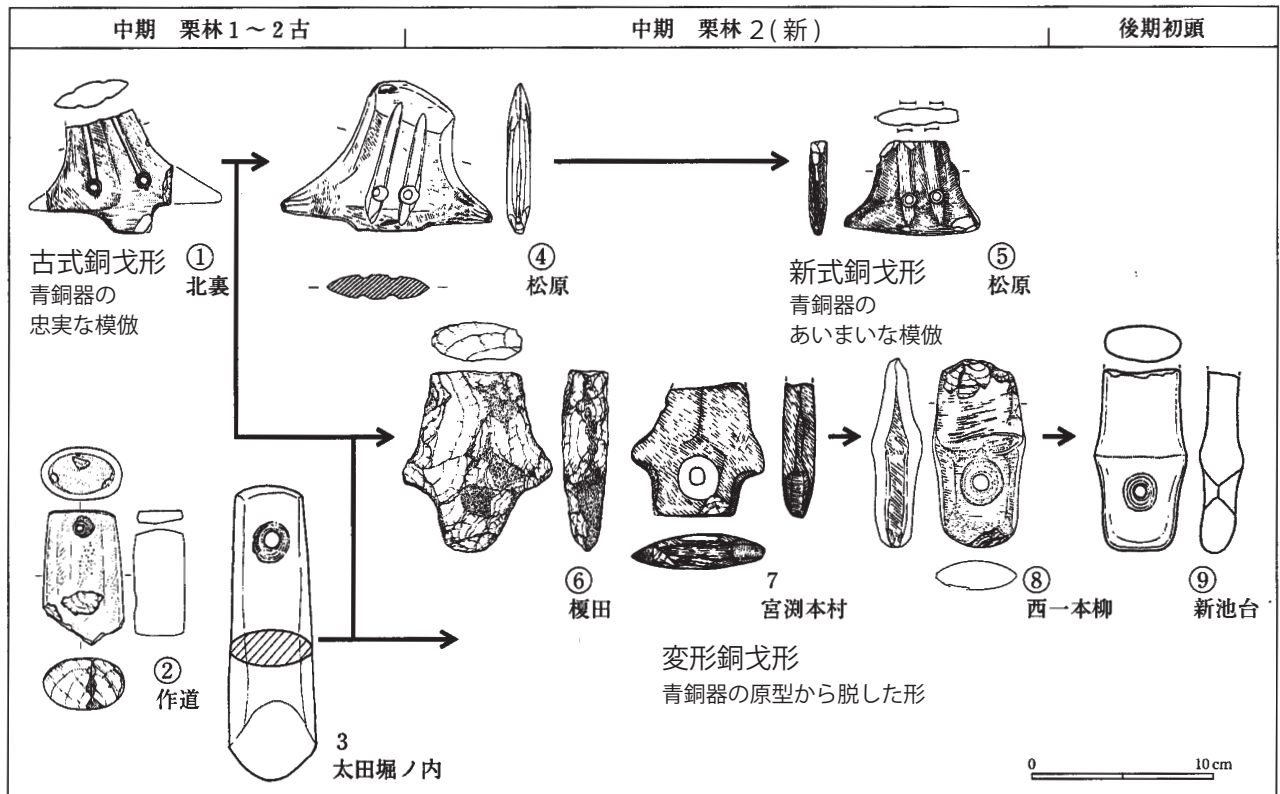


7 埼玉県 前中西遺跡

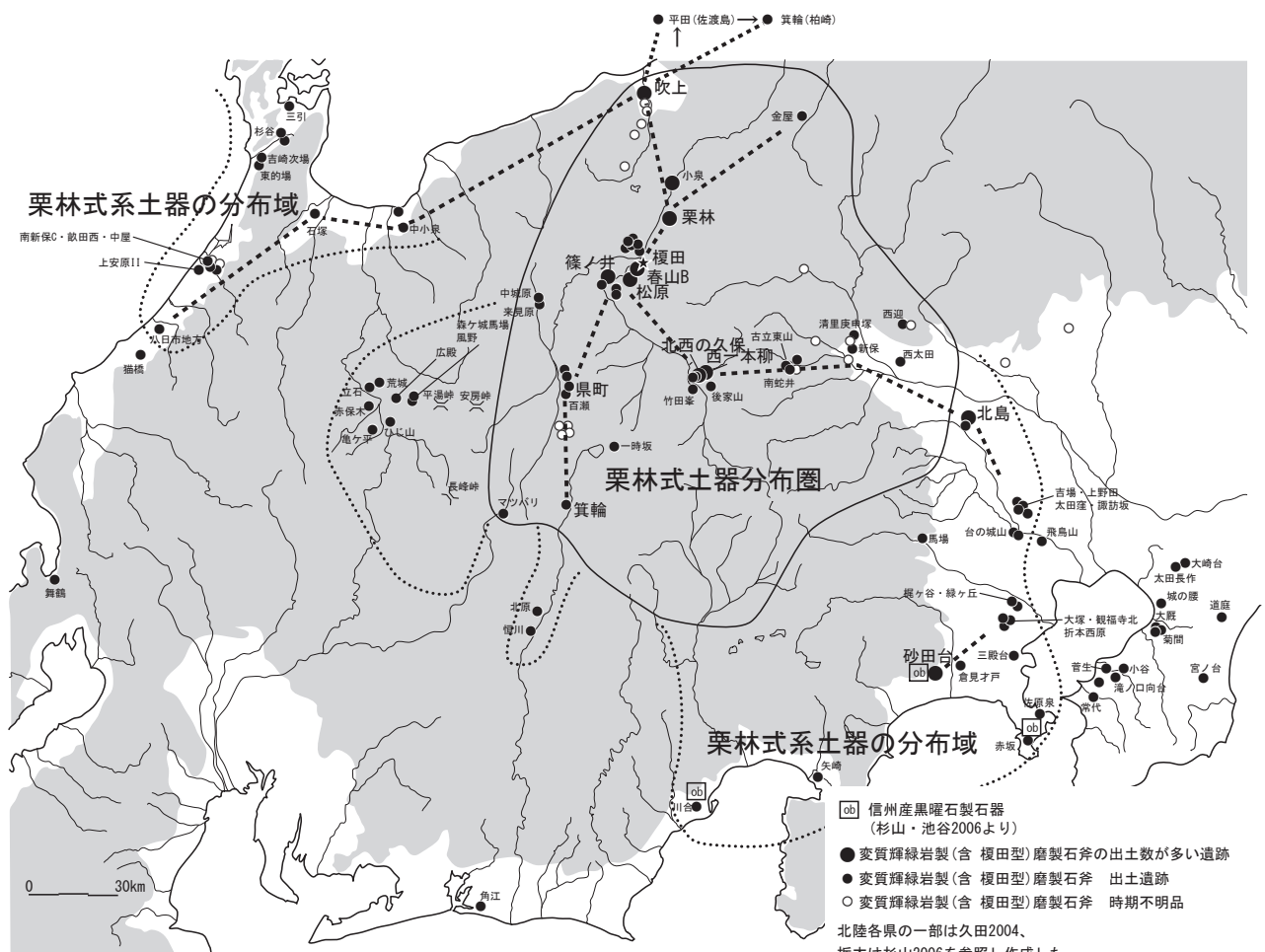
第7図 弥生時代中期の集落規模

* 環濠の規模が不明なものは遺跡の推定範囲を示す。方位不同
各集落は特定の期間内でも集落範囲等に拡大・縮小・移動等の変化があり、単純に集落の大きさを比較できない点に注意

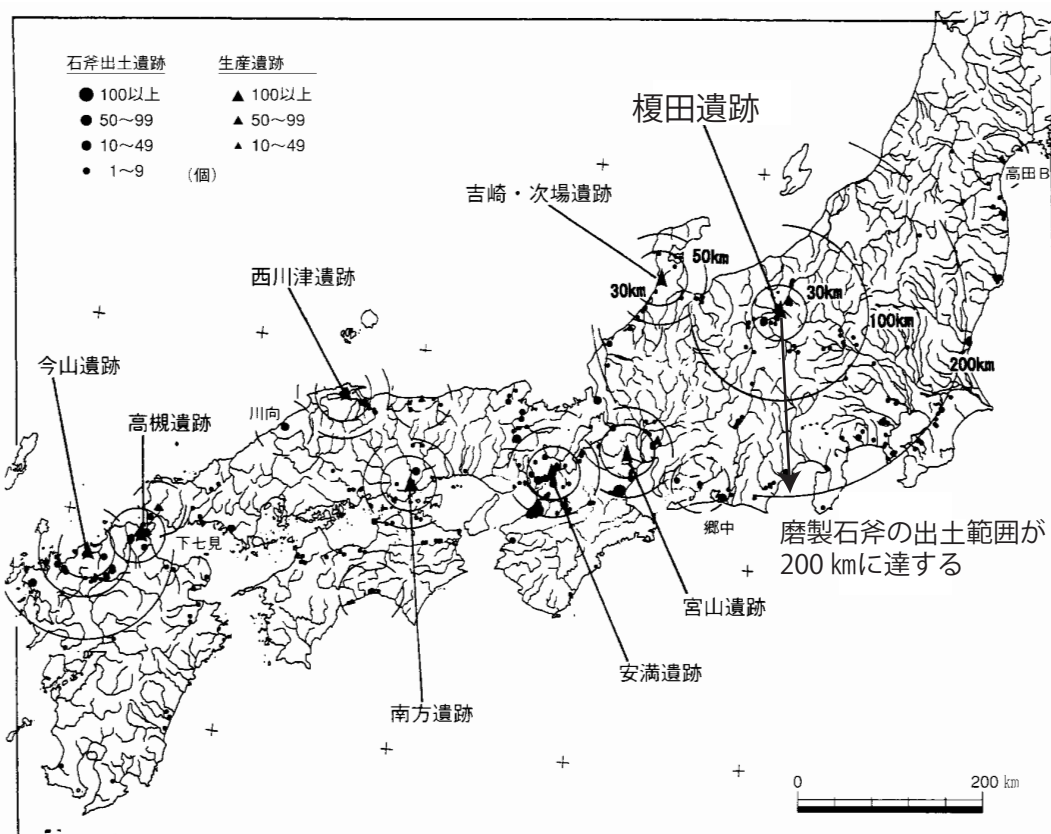
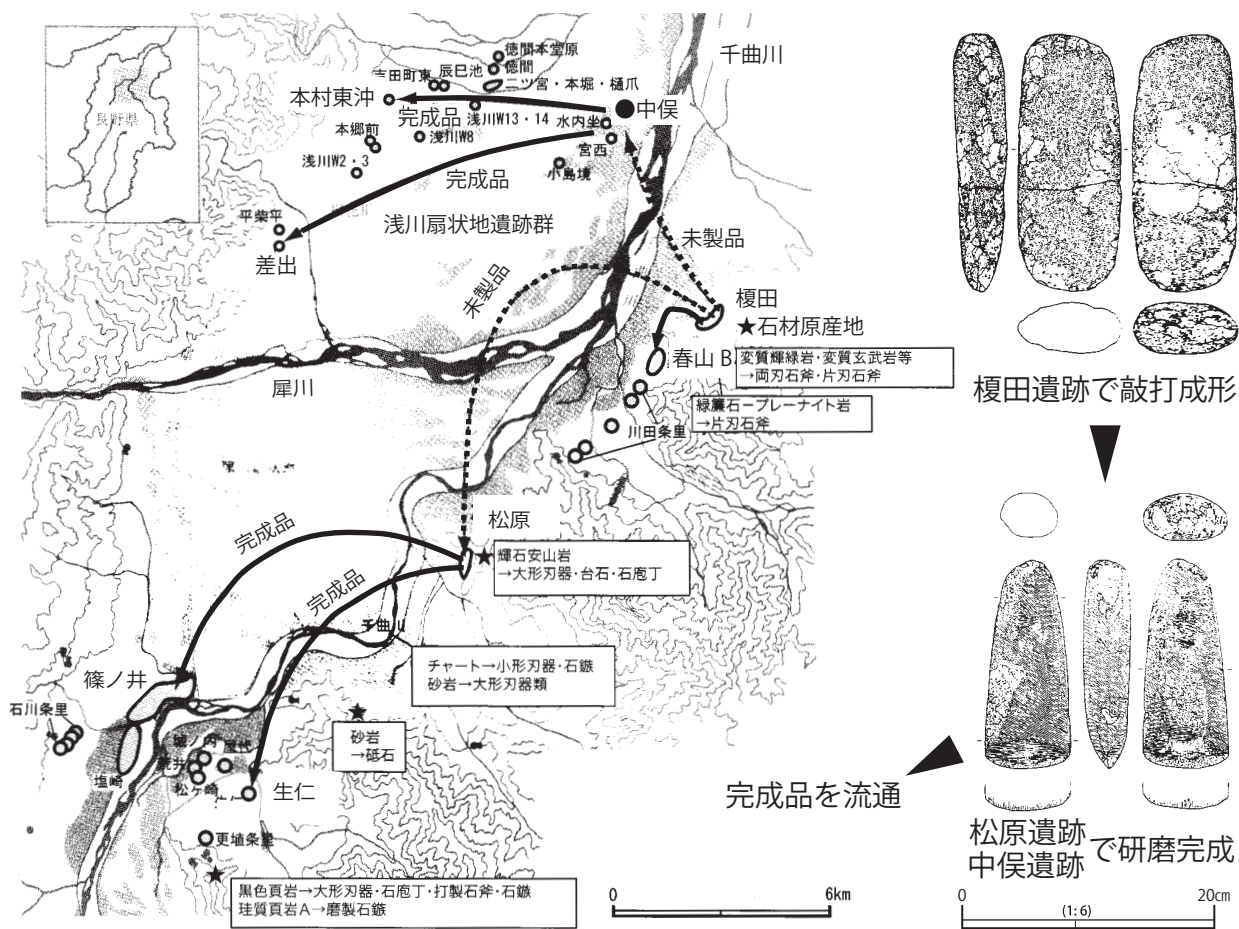
1・2 滋賀県安土城考古博物館 1998、3: 原田 2013、4 石川県埋文 2017、5・6 馬場 2013、7 石川・松田 2014 に加筆

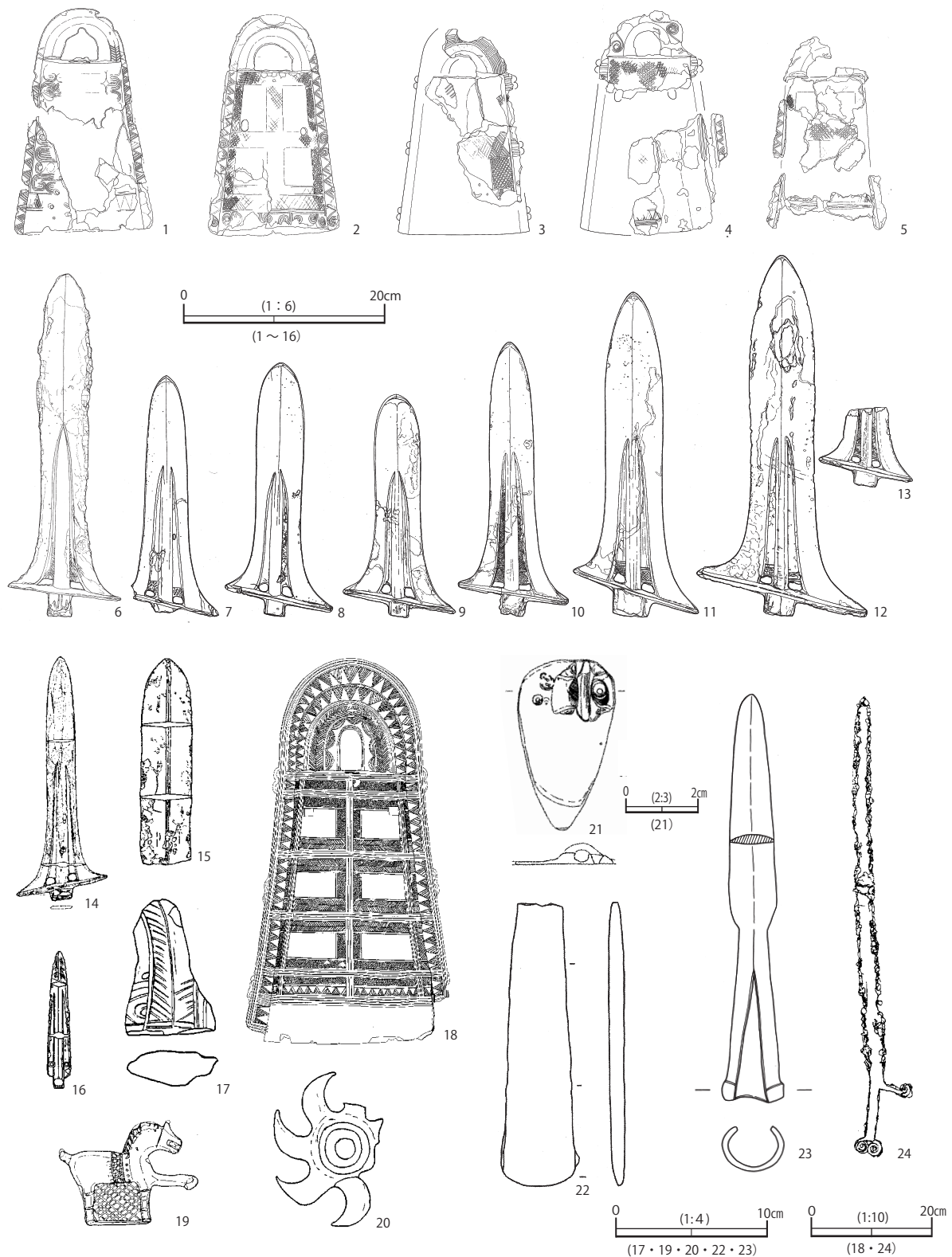


第8図 銅戈形・変形銅戈形・有孔石製品の系統関係と時期 (○は土器が共伴する例) 馬場2008aに加筆



第9図 変質輝緑岩製(榎田型)磨製石斧と栗林2式新段階の分布 馬場2009より引用





第12図 長野県出土 弥生時代主要金属器

時 期：中期（1～14・21） 弥生時代後期（15～20、22～24） 金属器の所属時期は、吉田 2013、笹澤 2014、佐久考古学会 2014 に基づく

青銅器：1～13（中野市柳沢遺跡）、14（大町市上諏訪神社蔵）、15（長野市篠ノ井松節遺跡）、16（千曲市箭塚遺跡）、17（松本市宮渚本村遺跡）、18（塩尻市柴宮遺跡）
19（長野市浅川端遺跡）、20（上田市上ノ平遺跡）、21（佐久市社宮司遺跡） 鉄器：22（佐久市北一本柳遺跡）、23（上田市上田原遺跡）、24（木島平村根塚遺跡）

出 典：1～13（長野県埋文 2012）、14・21（吉田 2013）、15・16（小山 2011）、17・18・20（長野県史刊行会 1988）、19（風間 2006）、22（佐久考古学会 2014）
23（上田市教委 1996）、24（木島平村教委 2002）

<「銅戈・銅鐸の作り方」と「パネルディスカッション」に関する引用・参考文献>

- 石川県埋蔵文化財センター 2017「八日市地方遺跡」『石川県埋蔵文化財情報』38
- 石川日出志 2012「栗林式土器の編年・系譜と青銅器文化の受容」『中野市柳沢遺跡』長野県埋蔵文化財センター
- 石川日出志・松田 哲 2014「総論」『熊谷市前中西遺跡を語る』六一書房
- 石野 亨・稲川弘明 1986『図説 日本の文化を探る 6 鋳物の文化史』小峰書店
- 大阪府立弥生文化博物館 2001『弥生都市は語る 環濠からのメッセージ』展示図録
- 榎原考古学研究所附属博物館 2009『銅鐸』展示図録
- 唐古・鍵考古学ミュージアム 2006『弥生時代の青銅器鋳造』展示図録
- 工楽善通 2012「青銅器祭祀のひろがり」『中野市柳沢遺跡』長野県埋蔵文化財センター
- 小松市教育委員会 2016「第IV章 科学的年代測定成果と広域編年」『八日市地方遺跡Ⅱ』
- 笹澤 浩 2004「第二部原始 第三章 第二節 弥生中期文化の発展」『上越市史』上越市
- 笹澤 浩 2012「長野盆地北部における栗林期集落遺跡の動態と柳沢遺跡」『中野市柳沢遺跡』長野県埋蔵文化財センター
- 笹澤正史 2015「海の道、山の道、玉の道」『フォーラム・小松式土器の時代Ⅱ』小松市埋蔵文化財センター
- 滋賀県立安土城考古博物館 1998『ムラの変貌―稲作と弥生文化―』展示図録
- 上越市教育委員会 2011『吹上遺跡Ⅱ』
- 島根県古代出雲歴史博物館 2012『弥生青銅器に魅せられた人々』展示図録
- 鶴田典昭 2016「弥生時代鍛冶遺構の可能性について」『南大原遺跡』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 111
- 長野県考古学会 2011「信濃の弥生文化を語る - 柳沢遺跡からのおくりもの -」『長野県考古学会誌』138・139 合併号
- 長野県埋蔵文化財センター 2008『北信濃 柳沢遺跡の銅戈・銅鐸』信濃毎日新聞社
- 長野県埋蔵文化財センター 2012『中野市柳沢遺跡』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 100
- 難波洋三 2009 a「柳沢遺跡出土の銅鐸と銅戈」『山を越え川に沿う』長野県立歴史館展示図録
- 難波洋三 2009 b「銅鐸の鋳造」『銅鐸』奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
- 難波洋三 2012「柳沢遺跡出土銅鐸の位置づけ」『中野市柳沢遺跡』長野県埋蔵文化財センター
- 馬場伸一郎 2006「佐久盆地における栗林式土器の編年と弥生中期集落」『長野県考古学会誌』112
- 馬場伸一郎 2007「大規模集落と手工業生産にみる弥生中期後葉の長野盆地南部」『考古学研究』54 - 1
- 馬場伸一郎 2008 a「武器形石製品と弥生中期栗林式文化」『「赤い土器のクニ」の考古学』雄山閣
- 馬場伸一郎 2008 b「弥生中期・栗林式土器編年の再構築と分布論的研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』145
- 馬場伸一郎 2009「磨製石斧の「流通」と「交易」」『中部の弥生時代研究』中部の弥生時代研究刊行委員会
- 馬場伸一郎 2013「弥生集落と地域社会」『文化の十字路 信州』日本考古学協会長野大会資料集
- 馬場伸一郎 2015「小松集団と交流する信州栗林集団」『フォーラム・小松式土器の時代Ⅱ』小松市埋蔵文化財センター
- 原田 幹 2013『東西弥生文化の結節点 朝日遺跡』シリーズ「遺跡を学ぶ」088 新泉社
- 廣田和穂 2013「増募と階層の理解」『文化の十字路 信州』日本考古学協会長野大会資料集
- 廣田和穂 2014「北信濃の集落と墳墓」『ふたかみ邪馬台国シンポジウム 14』資料集
- 町田勝則 2008 a「米作りの需要にみる信州の北南」『「赤い土器のクニ」の考古学』雄山閣
- 町田勝則 2008 b「石器に弥生の社会を読む」『「赤い土器のクニ」の考古学』雄山閣
- 町田勝則 2010「伐採石斧」『季刊考古学』111 雄山閣
- 吉田 広 2013「信州における青銅器の受容と祭祀」『文化の十字路 信州』日本考古学協会長野大会資料集
- 吉田 広 2015「青銅器の足跡」『フォーラム・小松式土器の時代Ⅱ』小松市埋蔵文化財センター



柳沢遺跡発掘調査報告書刊行 5 周年記念展示会
「掘るしん in 中野」 平成 30 年 3 月 3 日発行
(一財) 長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター
〒 388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4
TEL 026-293-5926 FAX 026-293-8157
E-mail info@naganomaibun.or.jp
<http://naganomaibun.or.jp/>

